

6月定例会

一般質問

市政を問う

議員6名



片平 市営船は公営船として昭和23年に低運賃、スピード、快適安全を柱に運行開始し現在に至っている。

かつて民間船会社との運賃競争の時には民間10円公営23円を青年団を始め多くの住民が、公営船擁護のため高い運賃の船に乗る運動を推進し公営船を守った。

能美町交通局は町民の切実な願いを実現する為に住民と共に懸命の努力を続け、海上交通の整備充実を図ってきた。

今、市公共交通協議会設置で議論されているが民間委託、公設民営など市民の不安は大きく、江田島市予算約150億の行政執行にも地域不均等があり、納得できない市民の声がよせられている。



大石 高田、三高間の波浪対策については、2008年3月定例会で林議員が一般質問され、当時の市長である曾根市長は「護岸高が不足し、波浪により車輛が影響を受けていることは認識しているのので県に早急に早期整備を要望する」と答弁されています。しかしながら未だ改善整備がされていないから再び私が質問させて頂きます。

市長 私も前市長と同感です。西部建設事務所へ土木建築部が毎年年度初めに要望活動を行っています。今年度も引き続き要望しています。厳しい財政状況でもあるが一層強く要望し、早期整備に向けて取り組んでまいります。

市営船維持を求めると同じように答えるのか

片平 司議員

答 市民の交通手段は守る

西能美は下水道事業を合併前にほとんどすませ済み、江田島、大柿は合併後から始まっている。すでに5年経過しており、今年度だけでも一般会計から7億円予算で今後10年20年と長い工事になる。市営船は合併後から累積赤字3億8千万だが市民の生活全体を守っているし、市営船は公共事業と比較して利益を生んでいる。通勤者40人で市民税約1億近くが入り、貴重な財源になっている。

5月29日の中国新聞での呉秋月航路の廃止問題でもあきらかなように民間は経営第一で利益が出ないと撤退する。市営船を維持してほしい市民の声に答えるべきだと思います。

市長の答弁を求めます。



▲市交通船（中町港）

市長 市民の交通手段は守らなければならない。その方法は公共交通協議会での結果を踏まえて全体的な視野にたって持続

可能な航路を目指していく。公設民営化も選択肢の一つである。

高田、三高間の高潮対策は

答 今年度調査し実現に努力

大石 秀昭議員

市民ニーズを反映した行政推進について

大石 現在江田島市以外（広島・呉方面）からの通勤者が数多くいますが、市の防災対策は充分で市民の安全は守られているのですか。又、通勤費が高速船対象で5万5千円、住居手当が2万7千円支給されている、江田島市在住の職員との平等性はどうか。これは私の選挙公約ですからぜひ改善していただきたい。通勤費を下げれば個人負担が増えるから江田島へ住んでいただけるのではないかと思います。

障なく、災害対応に努めております。通勤手当については、旅費の整合性もあり、今後の状況をふ

まえ、旅費の基準とあわせ検討したいと考えます。

市長 防災体制は大雨など災害予測される場合は職場や実家などで事前待機しているから大きな支



▲高田湯田地区